2015年（平成27年）11月20日発行　　第19号

# 西田小学校・同窓会　会報

発行者　西田小学校同窓会　　編集責任者・田村晋一郎（2期生）

昭和20年代の当時の校舎と運動会風景（9期と熊澤孝先生）

## 同窓会設立25周年をめざして

同窓会会長　中澤一郎（13期生）

ことしは戦後70年わが母校西田小学校も戦火に遭い、いろいろな苦難を乗り越えてきました。戦後は一貫して平和の大切さを教えられ今日に至っており、良き伝統が受け継がれております。本会報では図らずも当時の思い出の寄稿をいただき掲載しています。同窓生・保護者の皆様におかれましては、ぜひお子様やお孫さんに読んで聞かせていただいて戦争の悲惨さと平和の大切さを教えていただきたいと思います。

さて、私どもの同窓会は平成4年の創立50周記念年（昭和17年6月1日開校）の年に西田小学校同窓会として設立されました。初代会長には故野口洋介氏（2期生）が就任、10月に学校で盛大な50周年記念式典が挙行されました。同窓会からは和太鼓が寄贈され、今でも運動会などで活躍しています。

その後、平成8年に宇田川允敏氏（3期生）が平成11年に故下田修氏（1期生）、平成13年には再び宇田川允敏氏が会長となり現在の同窓会の基盤が確立されたといっても過言ではないでしょう。平成8年に会報第一号が発刊され現在まで続いております。平成14年に創立60周年記念行事が盛大に挙行されました。総会や祝賀会では各方面で活躍されておられる卒業生のご協力により数多（あまた）のアトラクションが企画され、会を盛り上げてくださいました。平成18年に土屋忠夫氏（3期生）が就任され同窓会の会員増加と財政の立て直しを目指しました。会報の充実が何よりとの会員からの励ましをいただき、維持会員の増加を果たすことができました。会報は今では会員の皆様にとって「西田小時代へタイムスリップ」「同期生の絆」昔の懐かしい思い出になっているのではないかと思います。皆様に喜んでいただける会報を目指して関係者一同頑張っております。今年で設立23年目ですが、各時期にお世話になった会長・世話人・役員・西田会・学校関係者のご尽力とご協力、これまで支えてくださっている多くの同窓生諸氏の賜物であると改めて深く感謝申し上げます。2年後の平成29年は学校創立75周年であり、同窓会設立25周年であります。

**同窓会総会を挙行したく“全同窓生のお力を戴きたい”と切に願っております。**

会長をお引き受けして3年、皆様からの暖かいご声援を肌で感じております。これからも皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

# 学校より

## 西田フェスティバルはいつから始まったのですか？

西田小学校校長　　本徳　文恵様

いつも同窓会会員の皆様、ご関係の皆様には大変お世話になっています。

会報を拝読するたびに同窓の皆様がご卒業されてから幾星霜が過ぎようとも西田小学校へ寄せる温かなお気持ちと西田の子ども達への慈(いつく)しみの眼差しに変わるところはないことを感じます。そして楽しみにしている記事があります。それは西田小学校で教鞭(きょうべん)をとられた先生方と子ども達との様々なエピソードです。

私は今から4年半前に第20代校長として着任いたしました。校長室には初代山極武利先生から19代の榎本先生までの肖像写真がずらりと並び、その写真に見守られながら日々仕事に励んでおります。毎日の様に5年間近く見ているためか殆どの方々のお顔を覚えてしまった様で、古い集合写真等を拝見すると一目でどの校長先生かが分るようになりました。けれども既に鬼籍に入られた方々も多く、どの様なお人柄だったかは想像するしかありません。そんな折に同窓会報に生前の先生方のご活躍の記事を見つけるとお写真を改めて見上げて、記事を幾度も読み返すことがあります。

さて恒例の西田フェスティバルが9月26日土曜日に行われました。

毎年、中澤会長さんがお出でになり子ども達の活躍を励ましてくださいます。ご近所の保育園や幼稚園にはご案内を送りましたので幼児を連れたお父さん、お母さんの姿もあります。西田小は創立73年目を迎えました。西田フェスティバルは元々、西田小の子ども達のための子ども達による子ども達の、学校のお誕生日（開校記念6月1日）を祝うお祭りとして始まったのは間違いないようです。異年齢集団による特別活動を「特色ある教育活動」としている西田小学校にとって、長年に亘って大切にしている行事として、すっかり定着しています。そこで毎年、西田フェスティバルの時期になると校長室に質問に来る子どもが必ず何人も現れます。「校長先生、西田フェスティバルは何時から始まったのですか？」残念なことに西田フェスティバルのいわれは解っても、始まりの年月が正確にわからないので答えられません。もし同窓会会員の皆様にご存知の方がいらっしゃいましたら是非教えていただきたいと思います。どうかよろしくお願いします。

## 学校行事から

★ **卒業式**　　平成27年3月25日（水）

今年は91名の児童が「西田の丘」を巣立ちました。母校の卒業生総数は11281名です。

ことしも、卒業生たちは、一人ひとり将来の希望や抱負を力強く述べて、出発です。心から卒業おめでとうとお祝いしました。

★ **入学式**　　平成27年4月6日（月）

どの新入生も担任の先生のあとについてかわいく緊張して入場してきました。会場のみんなの温かい拍手に迎えられ、これから始まる儀式は何が始まるのかな？

期待に燃えた新入生も、そろそろ半年がたち学校生活になじんだころでしょう。

★ **運動会**　　平成27年5月23日（土）

待ちに待った、いっしょうけんめい練習をしてきた運動会、晴天にめぐまれ開催されました。入学わずか1か月の新入生も立派に演技をしていました。卒業前の上級生の組体操「きずな」が強く印象に残りました。

また西田小ではお昼ご飯を校庭で家族・友達や隣人と一緒に楽しくとります。昔も、何年か前一緒に食べた「おいなりさん」「のりまき」「おにぎり」「たまごやき」「ゆでたまご」「たくあん」など思い出があります。これは昔からの伝統ですね。

★ **土曜授業で古典に親しむ**　平成27年6月13日（土）

講師に神田山緑さんをお迎えして講談の歴史、読書の楽しさのお話を聞き、講談「耳なし芳一」の実際を聞きました。迫力のあるしっかりとした話し方に、すごさも増してきます。だんだん話に引き込まれていきます。「ドキドキしてとてもこわかった」の子供たちの感想。やはり本物は“素晴らしい”の実感でした。

★ **サマーキャンプ**　平成27年7月4日（土）5日（日）

毎年楽しみにしている“西田おやじの会”主催の「西田小サマーキャンプ」が開催されました。子供たちと遊びを通して「はたらくこと」「はたらいた分お金がもらえること」「お金をつかうこと」「ごはんがたべられること」を実感します。炊き出し用の大釜を使って自分たちで作ったカレーライスを稼いだお金で食べられます。夜はテントや体育館で寝ます。今年は西田小震災救援所・消防署のスタッフから災害の時の訓練を受け、子どもたちと一緒に体験しました。また、日曜日は西田小同窓会のスタッフが一緒になって、「たけうま」「メンコ」作りやクイズと昔のおもちゃで遊びました。夕食後、お楽しみのキャンプファイヤーと花火大会は雨のため残念ながら中止となってしまいましたが、同窓会の田辺望さん（平成16年卒）のピアノ演奏を楽しみ、子どもたちからのたくさんのリクエスト曲を歌い寝る前の素晴らしいひと時を過ごすことができました。

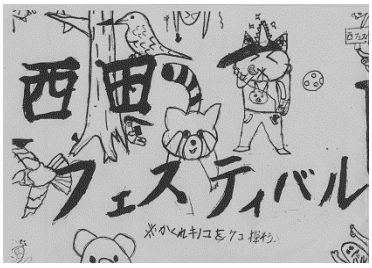
「西田おやじの会」では、随時会員募集中です。　おやじの会代表　山内　隆仁様

人命救助訓練

ピアノ演奏を楽しむ

★ **西田フェスティバル**　平成27年9月26日（土）

恒例の西田フェスティバルが開かれました。子ども達のアイディアで行われるお祭りです。毎年、いろいろな工夫があって手作りの苦労もあるようです。ゲームの中にはすぐこわれてしまって、修理に時間がかかっているブース、今年は探偵もの、宝探しが活躍していた感じでした。子ども達の中に入れていただき楽しいひと時でした。サンキュー！




★ **連合運動会**　平成27年10月14日（水）

今年は西田小の校庭で体力向上努力月間の一環として杉一小・杉二小・杉七小・東田小・桃二小・西田小の6校の6年生が集まり連合運動会が開催されました。

★ **阿佐ヶ谷JAZZストリートにポスター参加**

平成27年10月19日～

毎年開催される阿佐ヶ谷のJAZZフェスティバルで近辺の小中学校が阿佐ヶ谷パールセンター通りにポスターを展示して祭を盛り上げるのに一役かっています。5年生の力作を出展しました。

# 同期生よ集まろう！！

## 2期　卒業70年同期会

2期生（S20年卒）　田村　晋一郎

●平成27年3月18日、荻窪駅南口「すし屋の源」で開催しました。卒業70周年に当たります。集まった人数は11人、男8人女3人集まりました。遠方より沼津在住の澤田眞養君、船橋在住の島内毅君も馳せ参集してくれました。男性は両君の他、島貫、佐久間、詫摩、佐藤、翁村、田村で8名、女性は、和田（花柳）、磯貝、関野の3名でした。

我々は昭和14年小学校1年入学（桃井第二小学校他）、昭和20年3月に西田小学校を卒業したので、本年が卒業後70年目に当たりました。そこで同期会を開催しました。仲間の物故者が男性12名、女性不明です。なにしろ戦争中のため疎開をしてそのままの方とか、不明の方もおられるのです。皆で写真や證書を見たり、当時の話をして懐かしみました。学童疎開に行った仲間の話、残留した者の話、昭和20年3月、6年生が中学受験のため帰京（長野県より）の途中、赤羽駅で下町が空襲により鉄道が不通になって苦労して荻窪に帰ってきた話など。西田小学校は、昭和17年6月に桃井第二小学校と杉並第二小学校の子どもたちの一部が転校してできたのです。そして昭和20年5月25日、東京大空襲により焼けてしまったのです。

我々の年が今年卒業70年の記念に当たりますので、会を開き懐かしく楽しいひと時を過ごしました。「会を来年も開いて。」との声が多くありました。

## 7期　6年1組・2組合同クラス会

7期生（S25年卒）　浅野　純子（旧姓：浅沼）

●平成27年5月28日、吉祥寺の東急デパート内「點心茶室」で、昭和25年卒業の1組・2組合同クラス会が行われました。

前列左から
中野（宮本、浅沼（浅野）
朝野(藤島)、猪原(小野)
岸上先生、中島（土谷）
大谷（田端）、中村
後列左から
橋本、井原、長谷川
萩原、小嶋、細田
宇田川一浩、桑原
宇田川利満、石寺(花井)
田原、宇田川茂吉

エレベーターを降りて会場の方へ歩いていくと、何やらざわざわと楽しげなおしゃべりが聞こえてきました。そこには懐かしい顔がいっぱい！　昭和25年と言えば、元生徒は77か78歳という高齢、そして岸上先生は何と90歳だそうで、肌はツヤツヤと若々しく、生徒よりも若く見えました。現役で絵を描いている人、歯医者さんをやっている人、理科系の難しい仕事をしている人、テレビ関係の人など、何かをやっている人が多いのにも驚きました。皆と話していると、小学生時代の顔と重なり、話し方もグッと若くなって、本当に楽しいひと時でした。

岸上先生、また来年もお会いしましょう！いつまでも　お元気で。

## 9期　6年2組　熊澤　孝先生米寿のお祝い

9期生（S27年卒）　横田佳代子（旧姓：小川）

●平成27年1月18日、担任の熊澤　孝先生の米寿の祝賀会を、第9期（昭和27年卒）6年2組の教え子18名が吉祥寺の鶏や「すみか」に集まり開催しました。 第9期の生徒は終戦の翌年21年に小学校に入学し、戦後の新しい教育を受けた初めての生徒です。小学校5．6年の時、教育をして下さったのが希望に燃えた情熱家の若き教師、熊澤先生でした。熊澤先生は大正15年（1926年）8月2日のお生まれで、今年米寿を迎えられました。熊澤先生は、「今日が一番嬉しい。純粋に真心で、情熱と愛情を生徒にそそいだ美しい2年間でした。あなた方は私が教師になって初めて送った卒業生です。未熟な教師の過大な要求に応えてくれた美しい思い出のある生徒たちです。あなた方は私の人生にとって特別なものであり、一番印象が深く、私の寶（たから）です。」と挨拶された。「どんな生徒にも秘めたる能力を持っています。自尊心を失わせず、やる気を起こさせ、自分から勉強したり、運動をする気持ちを起こさせることが大切です。学歴とか名誉とかにとらわれるのでなく、一生懸命生きることが大切です。」長田光則さんは「校庭でのラグビー、野球のカーブ、昼休み時間の音楽鑑賞、どんな仕事でもよい、一番になれ！僕の生涯は熊澤先生の教えが基礎になっている気がします。」と感謝を述べた。 熊澤先生はその後、八王子、中央区等の四校の校長を務められました。著書は『自ら伸びる子の育成』『特別教育活動の実践』等。『瑞宝双光章』を叙勲された。当時、西田小学校、松渓中学校、都立西高校、東大が一つのコースで「東大を目指しなさい。それには12時前に寝てはいけない」と言われ、夜遅くまで東大を目指し生徒は必死で勉強した。勉強だけではなく、生徒の素質を伸ばし、何でも良いから一番になれ！と希望を与えた。熊澤先生はラグビーを教えた。野球、ドッジボール、ダンス、音楽と、生徒は生き生きと輝いた。廊下の隅に図書館を作り、文学に親しんだ。劇を自分たちで創作し演じた。給食の時間はクラシックの音楽を聴いた。こういった活動を父兄が一生懸命手伝って下さった。ラグビーのボールも図書館の本もクリスマス会のお菓子もお母さんたちの差し入れであった。

先生、生徒、父兄が信頼し合い、とても良い教育が行われていたことを話し合いました。
真実の教育をして下さった熊澤先生、良き友、いつも幹事役を務めてくれる矢代　捷さん、大阪から駆けつけてくれた堀　央江（森澤）さん達に皆に感謝し、再会を期して和やかな会を終えました。
＜左＞熊澤先生ご自宅　（昭和55年6月）

＜下＞吉祥寺「すみか」（平成27年1月）

前列左から
横田（小川）、堀（森沢）、
藤澤（宮崎）、正垣（平石）、
古田（前沢）、熊澤先生
矢代、吉村

後列左から
大倉、宇佐見、市川、
大森、星野、
平本（武田）、広瀬、
山口（多田）
上甲（山田）

## 13期　6年2組クラス会

13期生（S31年卒）　　中村　克

●平成27年6月21日に、13期6年2組のクラス会を武蔵境駅近くのレストラン「ダイニング　陽　HARU」で開催しました。大島信夫先生は本年数え年90歳(卒寿)を迎えられ、皆でお祝いしました。昭和31年の卒業以来60年振りに参加した二人を含め、合計17名が参加して、盛会でありました。

前列左から　中村、久武（三輪）、吉村（水原）、大島先生、田名網（柏木）、小林（内藤）
後列左から　野口杉男、関口、花輪、小川、黒田、灰谷、野口並人、村田、山田、多田、森谷

## 15期　古希祝賀会

15期生（S33年卒）　　宇田川　茂之

●今年は戦後70年、何かと話題の多かった一年ですが、その70年前の昭和20年・21年に生を受けた西田小学校15期生の古希の祝賀会が6月21日(日)に開催されました。梅雨の真っ最中で当日朝までは雨模様、それでも会が始まる頃には日差しにも恵まれ“お天道様は見てござる”、一足先の祝福、我が意を得た感じでした。会場は、学区域である地元の荻窪・東荻・西田町を離れた人が多いこともあり、各地から集まりやすい都心の第一ホテル東京(旧　新橋第一ホテル)。個人的にも企業人としてもいろんな思い出のあった懐かしい場所だったのではと推測しています。当日は1組の神山敏夫先生と同窓会長中澤氏のご出席も頂き、総勢45名の大祝賀会となりました。西田小卒業時は3クラス150名ほどでしたが、住所判明者90余名の半数にご出席を頂き、幹事一同感激・感謝をしています。

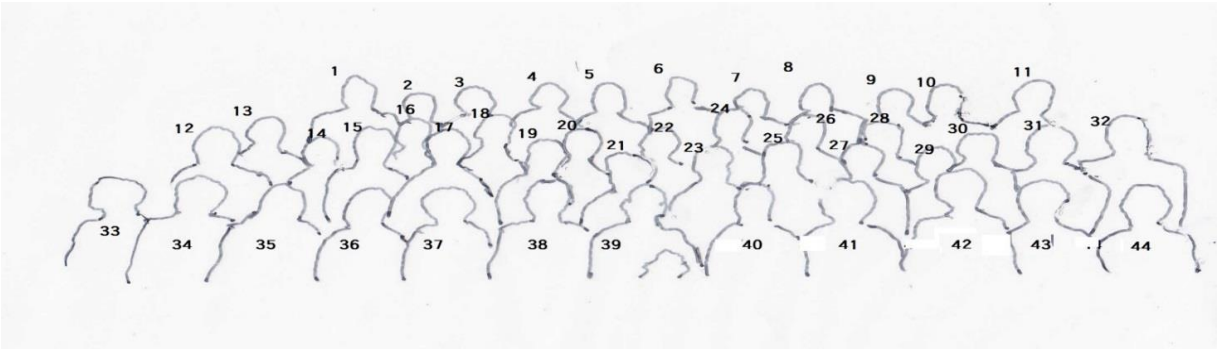
祝賀会の冒頭、神山先生より91歳になった今日も趣味の写真撮影などでお元気に活動されているとのお話がありました。その中で、古希を迎えた教え子たちに、一人も欠けることなく先生の御年である91歳まであと21年は頑張れ、頑張れるとの檄(げき)を頂き、全員意を強くしたものでした。元気でいられることの大切さとそのための方策を真剣に考えないとまずいと考えさせられた恩師の一言でもありました。

ホテルの美味しい食事と飲み放題でお腹は一杯、気分も最高となった時点で、各クラスの出席点呼をとりました。それまでは顔馴染みの旧友とのおしゃべりに夢中だった昔のお嬢ちゃんやいたずら坊主が真顔で他クラス一人一人の名前に聞き耳を立ててしっかり見つめていたのは印象的でした。その後の展開は皆様ご明察の通りです。当日の記念写真、正真正銘の古希祝賀会ですが、写っているひとり一人はとても若々しく70歳とは見えません。還暦祝賀会の写真と言っても通るのでは。各クラスを代表して男女1名ずつ6名からの近況報告や西田小時代の想い出が熱く語られました。廊下で長時間立たされたこと、ビンタ、男女混合の長馬、数々のいたずら等々、今日であれば父母が、マスコミが、教育委員会が大騒ぎをするような事柄が日常茶飯事だったというか、毎日のように起きていたのではと振り返る余裕のある15期生でした。我々15期生は四半世紀前の平成2年11月に卒業33年記念の同期会を開催、それ以来の今回の企画でした（もっともクラス会や昨今流行の女子会は定期的に開催されています)。

前回は45歳前後と言うことで、男性・女性とも超多忙期にあたり、何か気ぜわしい中での開催でしたが、今回はさすがに70歳、ゆったり間のある中での開催となりました。次の同期会(喜寿？)の開催希望まで出され、6月21日祝賀会当日にめでたく70歳の誕生日を迎えたS君を次回幹事代表に指名しました。

S 君、よろしくお願いします。

午後1時から始まった祝賀会でしたが、第一ホテルの中で午後7時過ぎまで会場を変えながら3次会まで続きました。その後も余韻を楽しんで街に繰り出した猛者もいたようです。でも、その後、飲み過ぎたとかの情報はありませんでした。15期生の皆さん、次回の集まりも元気で再会しましょう。裏方を務めていただいた幹事の皆さん、長期にわたりご準備いただきありがとうございました。




1:澤村　2:荒木　3:本名　4:大谷　5:斉藤　6:樫山　7:島田　8:橋爪　9:桜井　10:宇田川(茂之)　11:小林(保男)
12:橋本　13:武田　14:山下　15:川瀬　16:中村(由紀夫)　17:片山　18:吉田　19:中川　20:鈴木　21:新井
22:太田　23:朝永　24:川上　25:平山　26:相良　27:宇田川(一枝)　28:堀田　29:大槻　30:中嶋　31:浜田
32:花輪　33:綿貫　34:竹田　35:三井　36:光田　37:小島　38:西連寺　39:神山先生　40:中原　41:樽井
42 小林(三佐子)　43:中村　44:門真　(出席者 44 名)　お名前は旧姓です。

## 16期　6年1組クラス会

16期生(S34年卒)　　小池　達哉

●昭和34年卒業の西田小学校6年1組は、毎年10月の第3土曜日にクラス会を開いています。きっかけは西田小学校の50周年事業の一環で、担任大塚(旧姓竹中)朝子先生から旧友の住所調べの依頼を受けたことでした。それ以前にも開催していましたが、24年間の中断を経て平成5年に再開しました。担任の大塚先生も欠かさず出席されていましたが、数年前に体調を崩されて現在は欠席が続いています。途中から

は会場を阿佐ヶ谷にある同級生のお店に固定して、毎回十数人の出席者で酒を飲みながら12歳の昔に戻って、当時の話や近況報告で盛り上がり、二次会のカラオケでは全員元気に声を張り上げて楽しんでいます。遠方からクラス会のために上京する人もおります。今年は幹事都合で開催を来春に延期しましたが、来年は我々も古希を迎えます。いつまでも元気でこの会が長く続くことを願って幹事を続けています。

前列左から
益子、佐藤、国定

中列左から
亀田、石川（秋永）、高橋（三輪）、
市橋、小池、小田

後列左から
岡田、野口（渡辺）、瀬戸、新倉

## 17期　同期会

17期生（S35 年卒）　田辺　恵一

●平成23年の12月開催以来、今年で4回目の開催になりました。回を重ねるごとに新しい仲間が加わり、毎回楽しい時間を過ごしています。特に今回は海外でもご活躍の画家・堀本（旧姓・羽生）恵美子さん（6組）の参加があり、後日開催される絵画展のご案内を頂きました。今後のご活躍を応援していきたいと思います。次回の同期会は暫くお休みをいただき、2年後70歳（古希）のお祝いを兼ねた開催を企画しています。各世話人を中心としたクラス会は同期会とは別に企画開催していく予定ですので、連絡先住所録の充実にご協力をお願い申し上げます。

**第4回同期会　2014年11月30日　荻窪南口　「TRATTORIA Elmo Cielo」にて**

前列左から　武田、日下部、堀本(羽生)、右田、横川、飯田(綿貫)、小川（隆）
後列左から　久保(武井)、田辺、逸見(滝沢)、北村(樋口)、小川(文)、山本(大場)、石井、南雲、館林

17期各組の世話人連絡先は下記の通りです。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1組　小川　　隆 | 167-0052 | 杉並区南荻窪 1-11-6 | 03-3331-4679 | apatakashihr13sicg@jcom.home.ne.jp |
| 2組　武田　修一 | 167-0051 | 杉並区荻窪 3-9-6 | 090-8582-0465 | headnine10.take@tbu.t-com.ne.jp |
| 3組　横川　和則 | 167-0051 | 杉並区荻窪 1-56-15 | 080-6792-0413 | k_t_ykkw@ybb.ne |
| 4組　山本(大場)醇子 | 167-0052 | 杉並区南荻窪 1-10-13 | 03-5930-3435 | qqtk2hp9k@car.ocn.ne.jp |
| 5組　飯田(綿貫)典子 | 167-0081 | 杉並区宮前 2-21-15 | 03-3334-7857 | moriida@jcom.home.ne.jp |
| 6組　小島　和明 | 167-0051 | 杉並区荻窪 1-18-38 | 090-6521-6438 | kojima.k@jcom.home.ne.jp |
| 代表　田辺　恵一 | 167-0051 | 杉並区荻窪 3-46-13-101 | 080-5099-0611 | tanabe3911@mail.bbexcite.jp |
| | | かふぇ＆ほーる with 遊 | 03-6661-2336 | |

## 19期　6年3組「やまびこ会」

19期生（S37年卒）　挟間　純子

●私たち6年3組の「やまびこ会」は、還暦の時に黒澤弘夫先生ご夫妻をお呼びして新宿で集まりました。昨年の3月に先生がお元気なうちに皆で集まろうということになり、新宿の中華レストランで先生を囲んで楽しいひと時を過ごしました。先生から全員に心のこもった色紙をいただき良い記念になりました。

前列左から　国分、泉原、黒澤先生、小松、佐藤、岸畑、小川、野田
中列左から　竹本、森、狭間、林、金子、加藤、中村、亀井、三輪、首藤、長尾
後列左から　藤原、佐々木、守屋、谷津、松谷、榊間、西村

## 24期　6年2組還暦クラス会

24期生（S42年卒）　　清水　信昭

●平成27年2月14日(土)に「クラブイン荻窪」で開催。西田小学校の創立50周年を機に、平成4年、14年、24年と10年ごとに過去3回開催しておりましたが、今回は還暦を祝っての2年半ぶりの開催でした。当日は卒業生48名中20名(男性8、女性12)が出席しました。当時から仲の良いクラスであり、それが今のかなりの出席率に続いていると思います。今回は6年生の時に、お宅に伺ったりして我々がなついていた教育実習の川本先生(その後は小学校の先生ではなく大学の教授になられた)に初めて出席いただきました。たった3週間くらいを一緒に過ごしただけなので個々の記憶はなかったようですが、昔を懐かしみ喜んでいただけたようで良かったです。 いつものように、あっという間の3時間でした。昔の想い出話が多いのは常なのですが、それ以外は親の介護、自分の健康、老後の生活設計というところが今回の話題の中心でした。クラス会を機にその後も数人の仲間で集まっており、そこで今昔の話をする事が若さを保ち、認知症予防の一助になるのではないかと思っております。次回は前期高齢者となる65歳の時かなというような話をしてお開きとなりました。

前列左から　清水、植村、秋山、川本先生、田上、菅原、
後列左から　伊藤、藤原、寄木、桜井、小林、浜口、金子、守内、横田、中野、畳、三井、末次
（お名前は旧姓）

## 覚えていますか24期生の皆様

●あなた方卒業生が寄贈したプレートが正面玄関にあるのを覚えていますか。
「西田小は地球上のどこにあるの？」
そこには、こうしるされています。一度見に来て思い出してはいかが。

北緯　35度41分50秒4
東経　139度37分10秒3
海抜　42メートル

## 25期同期会還暦を祝って

25期生（S43年卒）　松田　秀雄

●平成27年10月31日（土）、中野サンプラザにて25期の同期会（第4回説と第5回説あり）を開催しました。6年前に同期会を実施した際に「次回は還暦のときに開催」という約束どおりの開催でした。 前回の同期会を機に毎年クラス会を開いているクラスもあれば、全く開いていないクラスもありましたが、久保田先生と仲瀬先生を含め男性34名、女性30名と、前回よりも若干少ない人数ながらも総勢64名が集まり、和気あいあいと楽しい時間を過ごすことができました。昔のことがいろいろ思い出され、1964年、小学校3年の東京オリンピックのときに、マラソンを直に応援したのか、それともTVを見て応援したのかが話題になりましたが、久保田先生にマラソンの応援の為に我々を青梅街道沿いまで連れて行ってくださったことを明言していただき、すっきりすることができました。前回出席いただいた佐治先生は鬼籍に入られてしまいましたが、我々とちょうどふた回り違いで同じ羊年の仲瀬先生と2つ先輩の久保田先生のおふたりとも、健康に気を使われ、とてもお元気で、我々も頑張らねばと大いに刺激を受け、逆に元気をいただきました。
1次会の中では合同のクラス会の呼びかけがあったり、3クラス合同の2次会では次期学年幹事から次回の同窓会は来年開催！とのことばも出たり、次回は6年も待たずに再会できることを確信することができた今年の同期会でした。

＜後列左から＞1:伊藤　2:杉本　3:松田（哲）4:多賀　5:越智　6:林　7:高橋（君）8:手塚　9:竹本　10:森　11:斉藤
12:榎本　13:三橋　14:泉　15:小林　16:金子　17:幸田　18:重久　19:小野　20:相良　21:伊東（完）22:佐々木
23:新井　24:角田　25:菊江　26:林(よ)27:高橋（洋）、
＜2 列目左から＞1:山本　2:早川　3:那須　4:露崎　5:東　6:吉田　7:小谷　8:小河　9:大石　10:北原　11:浜崎
12:高藤　13:小竹　14:奥川　15:早田　16:伊東（文）17:川上　18:北岡　19:浜田　20:安生、
＜前列左から＞1:唐沢　2:西田　3:清水　4:林（ゆ）5:小幡　6:小巌　7:久保田先生　8:仲瀬先生　9:松田（秀）
10:小川　11:鵜飼　12:鮎川　13:野崎　14:柴田　15:岡垣内　16:井上　　早退：鈴木（圭）
名前はすべて旧姓です。

## 27期　熊澤弘之先生を囲む会　1年2組

27期生（S45年卒）　外山　朋子（旧姓：和田）

●再び手繰り寄せられた縁により、20年ぶりに熊澤弘之先生に再会することができましたのは、12年前。それ以来、毎年3月の第1土曜日、先生が所属されている「光暢会」の作品展を京橋のギャラリーで拝見して1年間の健康を祝し盃をかわしております。

小学校・・・人として、おそらく最も大切な事を学び、沢山のことを吸収する時期。その大切な3年間、人生の第一歩を先生と過ごせましたこと、生徒みな感謝しております。そして再び繋がった縁を大切にしたいと思っております。

熊澤先生を囲む会　1年2組
・2015年3月7日
・場所：京橋ギャラリー　　くぼた
後列左から3番目　　熊澤弘之先生、
後列左から2番目　　木下始子先生

### 伝言板

◆ 杉並区立松渓中学校同窓会・総会開催のお知らせ

期日　　平成28年3月6日（日曜日）問合せ：sugi-shoukei-2014@shouwa-co.co.jp
時間　　13時00分　受付開始（14 時開会～16時閉会（新校舎見学も有ります）
会場　　松渓中学校・校舎内
会費　　無料（わずかな雑費用として寄付BOXを設置）
開催案内　各期世話人から発信します。お誘いあわせ下さい。
総会終了後は別会場で各期又は各クラス会を企画される可能性あります。

◆ 来る28年3月　13期昭和31年卒の卒業60年記念同期会を開催する予定です。

◆ 今年も喜寿、古希、還暦でクラス会や同期会が活発に開催されております。
来年は9期、16期、26期生が賀寿にあたることとなります。ぜひ、ご計画を！！

◆ 会員の皆様からの思い出や面白い記事をお待ちしております。

**2017年　同窓会25周年総会を成功させよう**

# 先生いつまでもお元気で

神山先生は13年間の長きにわたり西田小学校で多くの子どもたちを教え育ててくださいました。今でもお元気で12期、15期、22期等のクラス会や同期会にお見え戴いております。先生は特に思い入れの深い西田小学校の当時のことを「西田春夏秋冬」として思いつくままに書いてみようと目指しておられ、今回のご寄稿は西田小学校との“春、出会いと出発”です。

神山　敏夫先生　91歳　（平成24年叙勲）

公立小学校に40年余勤めた私が28歳から41歳までの13年間勤めた学校が西田小学校である。

校長室へと教頭から呼ばれた。ここは中野の大和小学校である。校長室に入ると、一見して校長か教頭かと思われる年配の客がいた。「川野です。」「初めまして神山です。」先に挨拶されてどぎまぎしながら慌てて挨拶を返した。杉並の西田小学校の教頭先生だ。2・3日前校長から「ここで8年にもなるし、若いうちに他区で修行してこないか」と言われたことを思い出した。「西田小学校は開校して十年も経っていない学校ですが、住宅地にあり父母も大変教育熱心です。神山先生に来ていただければ大歓迎ですよ。ともかく一度浅沼校長に会ってください。」何日かして私は西田小を訪ねることになった。昔、府立二中に通学していたころの親友が荻窪一丁目の橋田文部大臣の近くに住んでいて、二人で川南あたりを散歩し、仲道寺の近くから西田小学校のクリーム色の校舎を見たことが思い出された。何年ぶりかに来て学校の近くまで来ると町並みの中から現れた学校はかっての赤い瓦にクリーム色の綺麗なものではなく、平屋建てのバラック校舎に変わっていた。一瞬、空襲にあわなかった大和小学校の幸せを思った。浅沼校長先生は大変穏やかなお人柄でお会いしてすぐに浅沼先生が好きになってしまった。校舎はボロボロだがこの校長先生なら勤めても良いと思った。それから趣味の「釣り」の話に夢中になり、初対面なのにすっかり意気投合してしまった。後日であるが、浅沼校長先生は釣りの最中に突然、具合が悪くなりそのまま入院、帰らぬ人となられてしまわれた。

さて数日して杉並区役所から呼び出しを受け、瀬川という教育長と面会することとなった。貫禄十分な教育長に椅子をすすめられ「君が神山君かね、今度西田小学校へとのことだが、教育熱心な父兄ばかりで教育には大変厳しいとこだよ。やっていけるかね。」私は言下に答えた。「はい中野区も同じでありました。今まで頑張ってきましたので、これからも頑張ります。」「そうか安心したよ。しっかりやってくれたまえ。ご苦労さん。」わずか1・2分の面談で終わった。そしていよいよ西田小学校へ転任するのかとほっとした思いと、何か身震いのようなものがこみ上げてくるのを感じた。

四月一日。新しい学校、久しぶりに新卒になった気分。新しい私の西田小学校時代が始まった。

昭和27年28歳の春である。学級担任の発表があった。やんちゃ坊主の三年生、当時一般的に三年生はそういわれていた。それが新しい担任の子供たちと決まった。戦中の昭和18年9月新卒の私が大和小学校に赴任した時も、三年生で鼻汁を垂らしている子も、幼さの残っている子供たちが多かった。さて、西田小学校で出会った三年生の第一印象はというと、それは全く別の印象であった。始業式の日、新三年生の教室に並べられた机を前に両手を膝にきちんと置いて、背筋を伸ばしてじっと新しい担任を見つめていた50人を越える子どもたちを見て、自然に胸の奥が熱くなったことを今でも忘れることはできない。昭和27年、戦後7年目を迎えたこれからの一年間を共に過ごす新しい学校での三年生、鼻汁を垂らした子など一人もいない、瞳の奥に限りない可能性を秘めた、素晴らしい子供たちに出会ったのである。“さあやるぞ”私の西田小学校教諭の出発の嬉しい日であった。

後日談：昨年（平成26年）12月荻窪の義弟の家で、この時の三年生中村典義氏（13期）ご夫妻にお会いすることができた。わずかな担任期間であったが積もる話は時の過ぎるのを忘れ、まさに尽きることのない嬉しい時間を過ごすことができた。一期一会、教師は受け持った生徒の事を、老いて人の名前が急には思い出せないような年齢になっても、生涯心の中には何らかの形で“心の財産”としてちゃんとしまってある物なのである。再会を約してお別れした。

# 同窓生の広場

## 西田小70年前

### 西田小学校が空襲で焼けてしまった！！

2期生（S20年卒）　島内　毅

昭和20年5月25日夜11時頃だったと思う。「パラパラ、パラパラ、パラパラパラ」と大豆を炒るような不気味な音がして空から焼夷弾が降ってきた。荻窪1丁目（現在は29番地）の我が家の屋根に焼夷弾が一発落ちた。防空頭巾に水をたっぷりつけてから、急いで梯子で屋根にのぼり、水をバケツに3、4杯ぶっかけて消し止めたと思ったら、今度は生垣にもう一発落ちた、これも急いで消し止めたが、この焼夷弾は油脂が中から出てきて燃え出すので、落ち着いて水をかければ、1、2発なら比較的簡単に消せた。（参考までに3月10日、5月25日に東京に落とされた焼夷弾は、6cm位の六角形の筒状で、長さが50cm位の金属製のもので、大量の焼夷弾の油脂が木造の建物を燃やしたのだった。大空襲で、下町、山の手と、大きな被害を受けた。）近所にも何発も落ちて、皆で懸命に消したが、大きな焼夷弾の塊も落ちてきたりして大変な騒ぎだった。（注　この塊は通常空中でバラバラになって落ちるものが、分解しないで十数発そのまま落ちてくるもの）

西田小学校は、私たちが昭和20年3月に卒業した後、軍隊が使用していたために、この夜見晴らしの良い校舎が狙われて、数多くの焼夷弾が落とされて全焼してしまった。東の空がひどく赤く染まっていたのは、実際に燃えていたからだが、この夜は、自分のところの火消し作業で、手一杯だったので、翌日西田小に行ってすっかり焼け落ちた校舎跡を見て悲憤慷慨した。

昭和19年に私たち六年生は、長野への集団疎開組と、東京居残り組とがあって、私は、居残り組の生徒として、学校へは集団登校で通っていたが、学校給食の時間頃には、頻繁に警戒警報で、家に帰ることがあり、給食の蒸しパンを貰って家に着く間もなく空襲警報が鳴り響くことも多かった。午後の授業はほとんど出来なかったように記憶している。また、真冬の夜は寝付いた頃に、警報で叩き起こされて庭の防空壕に入り、2時間位して警報が解除になって寝床に戻っても蒲団は冷え切っていて、寝付かれなかった。

昭和20年3月に西田を卒業して、都立十中（現在の西高）に往復徒歩で通い始めたが、7月下旬に空襲警報が鳴って、走って帰宅途中（その頃は、畑が多くて空から丸見え）米軍の艦載機グラマンが、たった一人の私に機銃掃射を掛けてきた。ビューンという弾丸の金属音に驚き、よその家の木陰に隠れて難を逃れたが、危うく命を落とすところだった。また、B29を高射砲で撃墜した時に、久我山まで、墜落機を見に行き、ジュラルミンの破片を拾って帰ってきたこともあった。

そして、8月15日の天皇のポツダム宣言受諾の放送まで、日本は絶対に勝つと思っていたが、こんな戦争は、「百害有って、一利無し」と声高く叫びたい。　　終戦70周年記念日に記す

〈近況〉

昭和20年終戦の年から丁度70年の本年8月に当時を思い出して、現在の平和を有難く感じています。同期の田村晋一郎君のお陰で会報16・17・18号を懐かしく読みました。

### 思い出すままに

2期生（S20年卒）　澤田　眞養

西田小転校前の桃二小で同期の田村君とともに養護学級にいた私が、第一回長距離大会で学年トップとなり吉田先生から優勝のメダルを頂き本人は勿論、親も驚きました。後に、父の転勤に伴う一家転住・転校した広島、鳥取の高校で駅伝を走ったルーツでしょうね。

夏季、校舎に宿泊して行われた合宿訓練。木銃代わりの竹の棒での突撃訓練。 ひもじさが今でも思い出される、それでも懐かしい信州「別所温泉」への集団疎開。 そして、忘れられない「東京大空襲」。昭和20年3月10日未明、我々は中学受験のため長野から帰京の車内で、燃え盛る「東京」を目の前にしました。何かの手違いで順序が変わり、先行した江東区組は全滅と伺っています。荻窪駅には誰も迎えが無く、幽霊を見るような目で立ちつくす家族の元へ辿り着いたのです。そして5月25日中学入学後の西田小学校炎上です。

担任は、長池先生と、疎開先の浜先生です。大学卒業後、静岡県の公立高校に就職し、「地理」を担当すると共にサッカー部監督を務めました。かなり経った頃、下田北高のテニスの監督として全日本の選手を育てた方が「長池」というお名前と伝え聞きました。「待てよ？！長池？確か長池一二三先生は、戦後、故郷の下田へ帰られたと聞いたことがあるような」。とは思いつつ確認することもなく過ごしてしまった事が今になって悔やまれます。我々小学校の先生が高校の先生という事にも、違和感を持った事もあったのでしょうが、若気の至り！取り返しがつかない失態です。しかし、何年かして、初代同窓会長の野口君が消息を把握され、田村君、私を含め数名で下田をお訪ねし、先生との再会を果たしました。今回の同期会記念集会にと思い立って長池先生の高校教師としての履歴を確認したところ、昭和20年から45年まで勤務され、社会科、主に世界史を担当されたようです。テニス部監督として、インターハイの優勝者を出しておられます。

今年の3月18日の同期会に出席する前に少し時間がありましたので、何年振りかに西田小を訪ねました。教頭の田端先生にご挨拶、校門で写真を撮って駅南の会場へ。楽しい1日でした。

〈近況〉

平成27年3月18日、2期生の「卒業70周年記念集会」があり、数年集まっていないので、何人元気で集まれるか？心配していましたが、11名が集まりました。昨年亡くなった方もあり、次回はどうかなと、それぞれの健康が話題になりました。薄れつつある思い出を確認したり、「そうだったのか！」と改めて記憶の誤りを正して納得したり、幹事の田村君のアルバムが大活躍でした。

## 教育の原点

10期生（S28年卒）　河西　宏和

我々の愛する母校、西田小学校も歴史を重ね卒業生も又、多くの生徒を指導し薫陶(くんとう)を与えてくださった先生方も多数となっています。この間素晴らしい教育者が各年代に存在したことを忘れてはならないでしょう。

そうした中で私の胸に燦然(さんぜん)と輝き、今尚尊敬してやまない一人の女性教諭がおられた。昭和24年9月三年生後期に、山梨県の学校から双子の弟と共に西田小学校に転校してきた私たちを容姿端麗(ようしたんれい)で、見るからに聡明(そうめい)な女性教諭が担任として迎えてくださった。香下（こうした）冴子先生であった。天性の美貌に加え何よりもその堂々たる教諭としての自信に満ちた押し出しに子供ながら初対面からして心打たれるものがあった。香下先生は西田小学校で教鞭(きょうべん)をとられた期間は約3年と短く、先生を覚えている人は少ないかもしれない。地方から東京の学校に転校した双子の兄弟が果たして環境の変化に馴染(なじ)むであろうかと心配した父親が早速に香下先生にお目にかかり様子を聞くことになった。父親が「香下という苗字は大変に珍しいお名前ですね。私が学んだ私学の中学の漢文の先生に「香下天心」という方がおられ大変力量のある先生でしたが何かお繋(つな)がりがおありでしょうか」と伺った。それを聞いた香下先生の顔に一瞬朱がさし「父です」とのみ言われた。不思議なご縁であった。

先生は早く西田小学校の校風に溶け込めるように、多々ご指導をしてくださった。香下先生は担任として常に正しいことを進んで行う精神と人に迷惑をかけてはならないことを教育の理念に生徒を導いてくださった。

そんなある日、一人の学友が午後の授業に泣きながら入ってきた。話を聞くと昼休みでキャッチボールをしていた球が校庭の外の畑に飛んでいってしまったので、それを拾いに畑の中に入り捜しまわり作物を踏み荒らしているところをお百姓さんに見つかり、平手で顔を何度も殴られたとのことであった。周りに田園の光景が広がる西田小学校の校庭には隣接する畑が沢山あった頃である。この話を聞いた香下先生は毅然(きぜん)として「それはあなたが悪いのです。日頃人に迷惑をかけないよう、私はあなた方を指導しております。一年間丹誠(たんせい)を込めて実らせた作物を踏みつけられるお百姓さんの気持ちを良く考えなさい。私は担任としてあなたを殴ったお百姓さんに苦情をいうつもりはありません。むしろあなたがそのお百姓さんを訪ね、謝ってきなさい。」教室はまさに水を打ったように静まりかえった。時移ること65年。教諭として自分の立てた指針を貫き、それをもって教育の原点とする香下先生の在りし日の姿勢は私の西田小学校で授かった尊い教えの一つとなって今日を支え続けている。　（言語はあえて当時そのもので表現しています）

## 恩師との旅行

第9期　6年2組・熊澤孝先生との初旅行記　　9期生（S27年卒）　矢代　捷

熊澤先生は卒寿 1 歳手前。我々喜寿1歳手前の元気印12名が参加して長野県佐久平駅に11時に集合。車や新幹線に乗りたい人があちこちから集まり、先生卒寿の前祝いに佐久鯉料理を堪能してからぴんころ地蔵尊詣で。二日共汗をかくほど天候に恵まれて、念願の紅葉も迎えてくれアルプスの景色も遠望。地元に住んでいる藤沢順子さんご夫妻がビーナスラインめぐり共綿密に計画してくださり、素晴らしい景色も観賞しながら女神湖の最古参の佐久ホテルに到着。車3台に分乗して先生は休憩ごとに車を乗り替えながら男女半々の教え子の一人一人とじっくり話をされました。先生曰く「何ともいまだにあの時の生徒のままだなー」と。落葉を手で掬(すく)ったり、牧場ではアイスクリームに夢中になってピーチクパーチク山羊と戯れつつ時間がないよー。県民割引の特別待遇で深夜まで3次会族も、結構カラオケうまい人もいた。500曲の童謡を全部覚えて歌える先生の歌を聞く暇も無かったのが残念。翌日は早くから更にルンルン気分で、車内のα　波昔懐かしい曲を、もう一台の車はクラシック音楽を聴きながら尽きない話を。車山山頂へケーブル登山。さすがに先生も座込み派で「待ってるよ」空気もよし、美ヶ原美術館の昼食の信州そばも満喫。平日の10月20～21日道路も空っぽスイスイ。先生から6年生の時女子にもラグビーを教えていただいたのがついこの前のように思い出す素晴らしい後期高齢者の旅行でした。

蓼科・佐久旅行

ぴんころ地蔵尊

## 母校の校歌

荻窪では毎年、地域をあげての音楽祭が開催されています。荻窪の街の至る所で演奏会が開かれます。11月6日に開催された荻窪地域区民センターの音楽会場では、周辺の小学校の校歌の紹介展示企画がされており、西田小学校も紹介されました。　　下記は本徳校長先生の紹介文です。

現在の西田小学校校歌は学校創立10年目の昭和27年に作られました。西田小学校にとっては3つ目の校歌で、以来現在まで60年間歌い継がれてきました。

作詞は戦前戦後に日本抽象版画の先駆者として功績を遺した**恩地孝四郎**氏です。昭和27年は日本が平和国家として生まれ変わり、国際社会へ再出発した年でもありました。戦後のベビーブームの中、西田小学校にも多くの子ども達が学んでいました。

校歌には「小鳥さえずる緑豊かな町で、子ども達が楽しく学校に通い、誰もが平和で幸せに暮らせる世の中を創るため一生懸命勉強をしてほしい」という願いが込められています。

校歌を歌うたびに、西田小学校の開校10年間の歩み…戦前戦後の苦難のなか、学校づくりに懸命に取り組んだ、今も昔も変わらない地域の方々の心意気を感じずにはいられません。

校歌は22ページにて

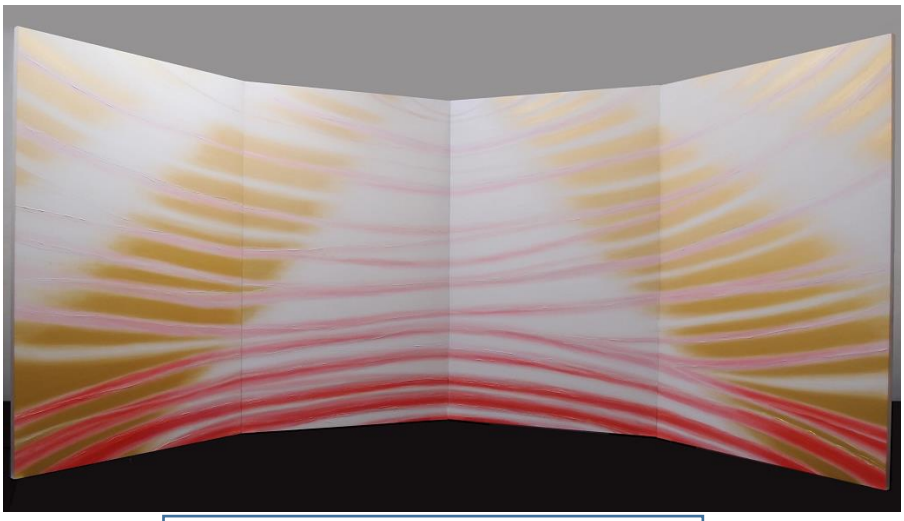
# 活躍しています

## １７期生より

**◆<u>１７期生（昭和３５年）卒業の美術家　堀本惠美子さんです。</u>**

作品は今から30年以上前から国内や海外の絵画展で高く評価されています。最近では平成２４年１２月に新宿小田急百貨店で開催されました。ご出身の豊多摩高校、東京女子大学にも収蔵展示されています。堀本さんは田端神社近くにお住いの現役“最高齢能面師”羽生光善氏のご長女です。羽生家の“魂”は堀本さんの絵に引き継がれています。青や金色が織りなすつながりは遠く、深く引き込まれる不思議な世界へと誘われ、そこから湧き出る力感が素晴らしいです。ご本人のエッセイ「愛のメッセージ」では『“心”や“魂”を絵画で表現してから30年が経ち、多くの個展を開催してきました。紛争中のコソボではアルバニア人とセルビア人が対立していました。「中立的な立場の日本人であるあなたの心や魂の愛のメッセージの作品が平和に役立つ」とフランスの連合軍の幹部から申し出があり、フランスで展覧会中の作品が軍の飛行機でコソボへ運ばれ展覧会が開催され、それが「コソボ国際平和展」へとつながり、そして１２回続きました。その後ロシア・ハバロフスクの「環太平洋国際アートフェスティバル」にても最優秀賞をいただきました。“心”や“魂”の作品を評価していただき歴史は確かに“心”や“魂”の時代に向かって動いていることを実感しました。』と語られています。 堀本さんは平和への強い願いを込めて愛のメッセージを送り続けておられます。

ことしは戦後７０年、本当の世界平和が恒久平和が来ることを祈ってやみません。　　記事　中澤



**希望の光　174×448cm（屏風）**

**大海原の波は　18.8×26.3cm**

**略歴ご紹介**

| | |
|---|---|
| 1947年 | 東京都杉並区荻窪出身（杉並区立西田小学校・都立豊多摩高校卒業） |
| 1968年 | 東京女子大学短期大学部卒業後・武蔵野美術学園修了 |
| 1980年～ | 国内個展を始める （現在まで国内外で三越・髙島屋・丸善など90回以上開催） |
| 1982年 | 日仏現代美術展（パリ） |
| 1991年 | サージマルジス賞受賞展（ニューヨーク） |
| 2002年～ | ナント、パリ、コソボ個展 |
| 2010年 | スイス・ジュネーブアートフェア |
| 2010年 | 韓国国際アートフェア KIAF （韓国） |
| 2011年 | 第八回公州国際アートフェスティバル招待 （韓国） |
| 2012年 | 「環太平洋国際アートフェスティバル」招待（ロシア） |
| 2013年 | Emiko HORIMOTO Exhibition　国際芸術祭 「2013 創造分野」（ロシア・ハバロフスク） |

堀本恵美子様ホームページはこちらから　　https://sites.google.com/site/emikohorimoto/

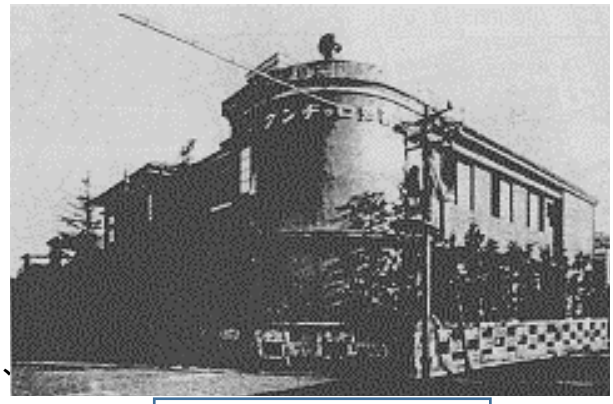
# 周辺探訪

## 旅館西郊・西郊ロッヂング（国・登録文化財）

荻窪駅南口から杉並中央図書館に向かって歩いていくと右側にたたずむ、昔からドーム型の屋根をもつ不思議な旅館、当時モダン、今でも貴重な日本旅館として多くの方に利用され親しまれています。

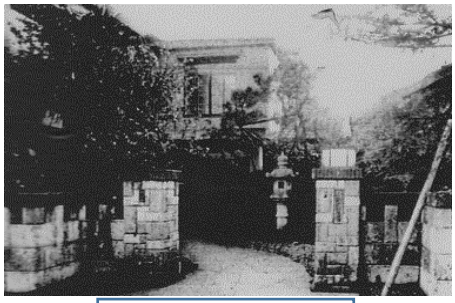
当主の平間様にご紹介いただきます。　　18期生（S36年卒）　平間　美民

私どもの前身は大正初期、祖母が東京市本郷区金助町にて和室の下宿業を始めましたが、大正12年の関東大震災で全焼してしまいました。その後、当時山手線の内側でないと東京ではないと言われた時代、どこか別荘地のような感の荻窪の地にやってまいりました。祖父は若いころ、宮内省の営繕におりました関係で御用邸や各宮様のお邸をまじかに拝見させていただく機会を得、洋の文化に関心をいだいておりました。現在では当たり前の一室ずつプライバシーの保てるベッド、マントルピース、室内電話を備え、施錠付ドアの洋間の賄（まかな）いつきの下宿を昭和5年にオープンしました。



昭和12年新館竣工時

都の西の洋間の下宿、洋風モダンな建築「西郊ロッヂング」の幕開けでございます。高級下宿ながら空室待ちの方が多く、7年後に新館として青銅のドーム屋根の建物を増築しました。（ドーム型の屋根は当時、宮内省を退職後に荒玉水道に勤めていた関係から排水塔の屋根のデザインを使ったようです。）戦時中は日本無線株式会社など軍需会社の社員寮として接収されました。戦後間もなく本館は洋から和へと内部のみ大改修し、以来、割烹旅館として古き良き昭和の佇（たたず）まいを楽しんでいただいております。新館部分は平成12年に各室内のみ改修し昭和レトロなアパートメントとして営業しています。初代が遺した建物は昭和から平成の世と時代の様々なニーズにお応えできたらと思っております。



戦前の本館玄関

## 寄り道「与謝野公園」

大正12年の関東大震災をきっかけに与謝野鉄幹と晶子が荻窪に引っ越してきました。南荻窪四丁目の住居あとは与謝野公園として憩いの場となっています。 熱愛によって晶子は鉄幹と結婚します。明治から大正の古き慣習の中にありながらも二人は歌人として独特・大胆な表現でいろいろな愛をうたいました。なかでも鉄幹「人を恋いふる歌」、晶子「みだれ髪」「君死にたまふことなかれ」が有名です。また、昭和11年、晶子は桃井第二小学校の校歌を作詞しており、その時「私は子供と云うものに大関心を持つようになった」と述べています。現在も子ども達によって歌い継がれています。ちなみに作曲は山本直忠氏（作曲家山本直純氏の父親）です。

与謝野公園

桃二小にある校歌歌碑

# 会員のメッセージ

会員の皆様からのメッセージです。会報発行が年１回なので、時間のずれが出ておりますことをお詫びします。（敬称略）

大坪三郎　１期：荻窪を離れて40年、実家の周囲は大分変ったようです。80歳を超えて体もだいぶ弱りました。子どもの頃を思い出し懐かしく思う昨今です。「故郷は遠くにありて思うもの」 なのでしょうか？ 同期生の消息が分からないのが残念です。

下川正則　１期：益々のご発展を祈ります。年があければ83才となります。

神山英子　１期：此の度は同窓会会報を何年か振りにいただき、楽しく読ませていただきました。再び会員に戻り余生を楽しませていただきます。１期の新田（岡川）桂子さん,和田（鶴田）恵子さんとは時々お会いします。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

岩波伸子　１期：お友達も少なくなり、私自身も医者通いが多くなりました。若い皆様頑張ってください・・・。

北岡靖博　３期：今年２月に3期生10名で昼食会を行いました。花崎氏より９月にイタリア文化会館でのマダムバタフライの話がありました。

高良暁子　４期：同窓会会報を送って下さりありがとうございました。元会長の兄（野口洋介）から頼まれ暫くお手伝いした事がありました。私は終戦の２年前、小三の時に父の転勤先の北京から帰国し荻窪に住み西田小に転入しました。その後昭和19年８月に集団疎開で兄と共に別所温泉に行きました。終戦後西田小に戻りましたが、校舎は消失し桃二に間借りしました。その後、私立の小学校に転校し西田小は卒業していないのです。三年間の西田の生活でしたが、集団疎開という辛い時期も今では色々想い出がございます。20年前に60歳で亡くなった兄が病気で動けなくなった時、西田の同級生の方々がお見舞いに来てはげまして下さり、どんなにか嬉しかったかと思います。その様な教育をして下さった西田小の教育方針が発展する事を心から祈って居ります。

中村通敏　５期：拙著の紹介ありがとうございました。前回会報で「奴国がわかれば邪馬台国がみえる」 を紹介しました。「棟上(むねあげ)寅七の古代史本批評」というブログは続けることができています。

都筑孝夫　６期：同窓会活動ご苦労様です。元気で頑張っています。６期では個人的に食事会をしています。

野村幸男　６期：元気で過ごしております。

赤根永子　６期：来年は80歳となりますが今でも元気にフォークダンス、ボウリングをしています。

浅野純子　７期：先月（５月）１組と2組の合同クラス会があり、久しぶりに岸上先生にお会いして嬉しかったです。先生の元気なお顔を見て安心しました。

佐川明子　８期：16年前専門学校を卒業して、按摩マッサージ指圧師の仕事をしています。ゆうゆう荻窪東館で65歳以上を対象に月二回“ほほえみ体操”なるものを主催しております。 今年11月で喜寿を迎えますが、健康オタクで元気ですよ～。　昨年同窓会の連絡を頂き、改めてお仲間入りさせて頂きます。8期の渋谷さん、よく隣の席になりましたね、覚えております。日下部先生、堀田先生、岸上先生を覚えております。

遠藤朝子　８期：会報送付いただき有難うございます。

水澤欣子　８期：遠方まで会報有難うございます。後期高齢となりましたが何とか元気に毎日を過ごしています。

宇治川多嘉子　９期：会報がきれいに楽しい読み物になり感激しております。 松渓中学校卒業生のホームカミングデイ（同窓会）を計画しております。

小嶋恵子　９期：母の主宰していた短歌誌のあとを継いでおります。（ご希望の方はご一報下さい）
西田小は田圃を隔てたところに我が家があったので、中学になっても庭から見えていました。その後、結婚し伊丹、鎌倉に住んだりしてご無沙汰しているうちに風景はすっかり変わってしまったと思います。 鎌倉に住むようになってからクラス会に参加しておりません。何とかクラス会に出席したいと思いつつ、何やかにや果たせず大変残念です。

内海忠司　12期：元気です。

武田喜一　12期：同窓会会報ありがとうございます。楽しく拝読させていただきました。リタイヤした後は先輩や同輩、地域の人たちとゴルフをしたり、色々な行事に参加しています。歩いてもあまり汗をかかない季節に街歩きをしています。歴史的に名前が残っている所を公共交通機関を使って行くのが楽しいですね。最近の例は 曲垣平九郎の愛宕山、新橋二丁目の切腹最中の店、落語でお馴染み玉子稲荷では小さくなった店で名物の玉子焼きをおばちゃんが焼いていました。歌舞伎“外郎売り”の本家本元 小田原に行ってきました。齢を重ねて悪くなった滑舌を「外郎売り」の口上で毎日鍛えています。

大鐘佳子　12期：西田小在席は5年までした、転校した後、松渓中に戻りました。

小玉新吉　13期：椎間板ヘルニア、狭心症などで60才代はあまりよくありませんでしたが、現在は元気になりカラオケ、旅行に頑張っています。

飯田涼子　13期：荻窪を離れて三島市に暮らして45年、たまに東京へ行くと浦島太郎子さんです。

辻喜代子　13期：素晴らしい会報有難うございます。楽しませていただきました。

渡邉正子　13期：周辺探訪など昔の西田町の風景を思い出しながら楽しく読ませていただきました。

伊藤怜子　14期：先日は西田小会報を送って頂きありがとうございました。昔、実家は薬局をしていて、「たまに朝永先生が買いにいらしたよ」 と父が話しておりなつかしく思い出しました。

三浦明子　14期：5月の同期会有難うございました。またの機会楽しみにしております。

山口輝子　14期：70才になり西田小の頃が懐かしく思い出します。あきる野市で自然を満喫しています。同期の友人と周辺を散策してきました。環境の変化に長い年月が思い出されました。

佐々木美枝子　15期：会報とても懐かしく拝見しました。

浜田成美　15期：同期の小松久美子さんから同窓会の資料を見せていただき、この活動を知りました。
すばらしい会報も拝見しました。

小池達哉　16期：年に一度6年1組のクラス会を開いております。

戸根木茂　16期：10年前に引っ越しし、姉から西田小同窓会のパンフレットを見て送りました。

武田修一　17期：昨年同期会に参加して懐かしく約55年前を思い出します。

野口順皓　17期：年金生活にてヒマなはずが、用務多忙で過ごしています。

山口建史　18期：母校（皇学館）の常務理事に就任しました。住所変更お願いします。

佐藤昭男　19期：26年4月に黒沢弘夫先生をお迎えして新宿で20名ほど集まりクラス会を行いました。

古畑由美子　19期：平成14年 岸上先生と西荻のこけしやで楽しいひと時を過ごしました。先生は杖で登場。「眼が緑内障と白内障になっちゃたよ」おちゃめな先生健在！！

世良隆明　21期：「同窓会からのおたより」をお送りいただき有難うございました。

清水信昭　24期：還暦祝いのクラス会を 2 月にやります。

福代茂　24期：はじめて会報を受け取りました。書道、チェロ。現在、大田区に住んでいますが関与先もあるので荻窪には時々乗降しています。懐かしさで一杯になります。64年前、入学式後の教室でいつまでも自分の座る机を探し歩く私がいた。“ふくよ・しげる”の名前はどこにも見つからない。 やむなく別人“ふくしろ・しげる”のシールが付いた机の横にポツンと立ちつくしていた。「いいからそこに座りなさい！」担任の先生に従い、渋々着席したが疎外感で一杯の小学生一日目を過ごした。通学区域の端から30分かけて、6年間登校した道程も遠かったがお蔭で随分足も鍛えられたと思う。荻窪は都心に至近で相続税も高い地域。少しでも税負担を下げるには親と同居も簡単かつ有効な手法です。事前に相続税を知り対策を練るのも早めがよいでしょう。無料相談承ります。

山形教亨　39期：息子も西田に通っております。友達も増え昔ながらに境内で遊ぶ声が響いてほほえましく思っております。

正木祥代　60期：昨年結婚して（下田から）正木です。連絡は実家で結構です。

# ご報告など

## 役員会・世話人会より

平成27年6月以降

◆平成27年度「同窓会からのおたより」発行作業

1. 日時　　平成27年8月2日（日）午後1時～　　荻窪地域区民センター集会室
2. 出席者　　世話人・役員　14名

◆平成27年度「会報」作成作業

1. 日時　　平成27年9月13日（日）午前9時～　　荻窪地域区民センター集会室
2. 出席者　　広報委員会　11名

◆平成27年度世話人・役員会

1. 日時　　平成27年9月27日（日）　　旅館「西郊」
2. 出席者　　世話人・役員　16名
3. 報告　　（1）半期の行事・会計報告
　　（2）各年代の幹事会について

旅館西郊において

◆世話人・理事の交代と補佐役設置がありました。

1. 藤田慎治様が世話人を退任されました。
　小林眞人様、宇田川茂之様が理事に就任されました。
2. 小林眞人様が世話人会担当、宇田川茂之様が会計担当、
　宇田川政幸様が名簿管理等担当の補佐役になりました。

## 個人情報保護について

同窓会会則により個人情報保護について規定しております。
お名前、住所などの登録情報は名簿管理責任者を決め管理しております。名簿及びその他の個人情報や記事情報などは同窓会の活動（会報送付、同窓会開催、連絡）のみに使用し他への流用はしません。
ぜひ名簿登録（会報発送用）にご協力ください。

## 維持会費制度について

■　維持会費制度は、基本的に任意です。極力、会員の皆様の煩（わずら）わしさとご負担を軽くするため8年前に制度化され皆様方のご協力を戴いております。下記の通りです。

・維持会費は年間500円とし、5年分（2500円）を一括してお振込み戴きます。
・維持会費は卒業後20年経過した時点での開始となります。振り込み手数料はかかりません。
同封のお振込み用紙（2枚）の記載方法は下記要領でお願いします。
・1枚は2500円の維持会費金額が記載され維持会費用です。
・もう1枚は金額が記載されていないご寄付用です。

**※　なお、維持会費の有効期間（5年：平成23年以降納付の方）内の会員様には維持会費用振込用紙は入れておりません。有効期間が過ぎている維持会員の方には振込用紙を入れてありますので、ぜひご継続をお願いいたします。維持会費の納入状況がわからない場合はお問い合わせください。新規ご登録、維持会費のお振込みをお待ちいたしております。**

**■　ご寄付のお願いも申し上げます。ご寄附用の振込用紙を同封させていただいております。**
学校の行事支援や周年行事に必要な資金として維持会費とは別によろしくお願いいたします。

## 編集後記

■ 本会報に多くの皆様から寄稿・記事などいただきましたこと厚くお礼を申し上げます。

■ 今年は戦後70年にあたり、国内海外でも大きな話題となっております。
私どもの母校は戦中下に誕生し、戦争の悲劇を経験しています。当時の学童が戦火を避けるため親と離れ、疎開(そかい)という現在では考えられない怖くて淋しい境遇に置かれたという現実があったのです。世界ではまだまだ子供たちが危険にさらされているという悲惨な出来事が無くなっていないのも事実です。平和を大切にし、それを継続できる社会が求められます。これには一人一人の力と団結が必要で、教育の大切さを痛感しております。期せずして、この会報では卒業2期生と神山先生から投稿いただき、まさに母校の70年前を思いだし、あるいは想像していただけるのではないかと思います。表紙の写真では“懐かしい木造の校舎”と“ダルマストーブの煙突”が郷愁を感じさせております。

会長　中澤　一郎

■ 広報委員は下記の方々です。(敬称略)

・編集発行責任者　田村晋一郎　2 期

・広報委員長　中澤　一郎　13 期

・広報委員　吉田浩二　12 期、小林眞人　14 期、横川和則　17 期、島田真理子　18 期、安藤公一　19 期、栗田恒雄　19 期、宇田川政幸　19 期、萩原伸一　20 期

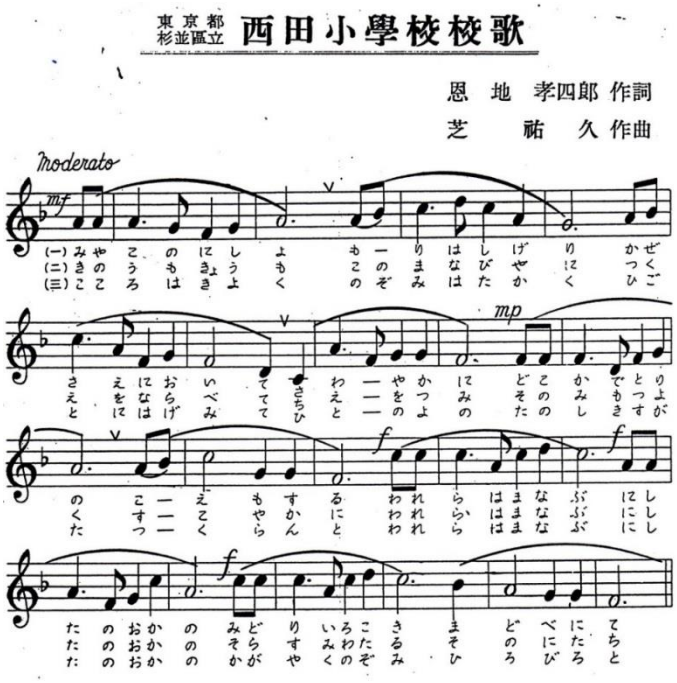

**連絡先**

**■会報へのお問い合わせ　田村晋一郎　〒167-0051　杉並区荻窪 3-39-11**

**メール　:ys-tamura@jcom.home.ne.jp**

**■会長へのお問い合わせ　中澤　一郎　〒167-0051　杉並区荻窪 4-24-14**

**TEL　:　03-3398-5334(FAX同)　メール　:nk168ichi@jcom.home.ne.jp**


**西田小卒業したら、老い(86才)も若き(13 才)も、仲良し同窓生！！！**

**西田小学校校歌**

一、都の西よ　森はしげり
　風さえにおいて　爽やかに
　どこかで鳥の声もする
　我らは学ぶ　西田の丘の
　緑色濃き　窓辺にて

二、昨日も今日も　この学舎に
　机を並べて知恵を積み
　その身も強く健やかに
　我らは学ぶ　西田の丘の
　空澄みわたる　園に立ち

三、心は清く　望みは高く
　日毎にはげみて　人の世の
　楽しき姿　作らんと
　我らは学ぶ　西田の丘の
　輝く望み　広々と